修練

一般社団法人にいがた北青年会議所

2013年度スローガン

実践躬行

～北区の明日（未来）に今できる事～
歴史と伝統・誇りを胸に

2013年度 11月号

１０月例会

学んで実践！AED救命措置

戸田東輔君、今回の例会を担当して、一回り成長した姿を見せました。

１０月７日、当青年会議所では、『学んで実践！「ＡＥＤ救命措置」』と題して、北消防署の隊員３名の方を講師として迎え、最新の救命措置（心肺蘇生法とＡＥＤの使用）を習得できるように、救命講習を行いました。いくつかの組みに分かれて、ＤＶＤを見て学習した後、実際に訓練用の人形を使い心肺蘇生法やＡＥＤの使用方法などを学びました。緊急時の対応に関する知識が必要なことを再認識する講習となりました。なお、当日は当青年会議所のメンバーだけでなく、８名のオブザーバーにもご参加頂き、講習終了後は懇親会で親睦を深めました。

講師の北消防署の隊員の皆様有難うございました。

次年度理事長予定者を励ます会

１０月１５日、当青年会議所の次年度理事長予定者である善宝晋場君を励ます会が行われました。昼の部ではゴルフコンペ、夜の部では割烹中常楼にて励ます会が盛大に行われました。ＯＢをはじめ数多くの方にご参加頂き、次年度に弾みが付く会となりました。

福島潟自然文化祭

９月２３日、福島潟自然文化祭において、当青年会議所では森の広場で「どろんこレース」を行いました。日頃はなかなかすることができない泥遊びも、この日ばかりは親も公認とあって、子供達は自然のなかでめいっぱい楽しんでいました。

SCLOM5事業

９月２９日、今年度のＳＣＬＯＭ５事業として、秋葉山において、里山体験を行いました。内容は秋葉公園でのウォークラリー、間伐材を使ってのコースター作り、バーベキュー、ピザ作成コンテストなど大変盛り沢山なものでした。秋晴れの中、特に子供たちは里山の自然を満喫していました。

理事長対談2013

2013年度の理事長対談は地域で活動をしている団体の代表者からお話をお伺いをすることにより、青年会議所として地域のために何が出来るのか、地域のニーズを探る企画です。第6回の対談者は、

新潟市北区役所
区長　中澤　晃一　様

×

一般社団法人にいがた北青年会議所
小林直人　理事長

理事長　にいがた北青年会議所は、地域の問題点、課題点に事業を通して関わっていきたいと思っています。是非、本日は北区の長として、率直にご意見をお聞かせ頂ければと思います。

中澤氏　意見ということよりも期待することですね。私が北区に来て1年半になります。北区は旧豊栄地区と北地区という2つの地区が一緒になった、このような形になったのは江南区と北区だけなんですね。私がここに来て意を尽くしてきたつもりなのが、やはり一体感、これを醸成していかないと、他の区に遅れを取ってしまう、これからは区の中での競争もあると思うんですよ。その中で、新潟市も合併して10年を迎えるわけですが、市職員でも若手の職員を中心に、合併後に採用された職員がかなりの数になっています。地域に想いを馳せる方もいますが、若い人は別段合併をして、この地区という垣根は無いんですね。10年経って、新しい新潟市また北区の新しいまちづくりを真剣に考えて作って行かなくてはならないと思っています。

理事長　私達も活動するために、一体感を持つために、青年と言われている私達が率先してやろうじゃないかということで、豊栄青年会議所からにいがた北青年会議所に名称変更を行いました。先ほどの区長のお話しにもあったのですが、今生まれてくる子供達は何の違和感もなく北区として捉えると思います。

中澤氏　北区に限ったことではないですが、課題としては福祉、教育、防災、この3本柱がどこの地区でも進めて行かなくてはならない大きな事柄です。割と教育と防災に関しては、地域での取り組みが進んできています。しかし、福祉の部分になると、どうしても施設とか社会福祉協議会のものということで、自分達の問題として捉え方が弱いと思うことがあります。

理事長　私達は社会開発といって、地域の皆さんを巻き込むような事業を行っています。特に青少年育成事業に力を入れているのですが、これからは年長者といわれる方々にも関わって頂けるような事業を行うことも大切に思います。私が今年対談を通して気になったことが、孤独死や年を取ると家から出ない、人と関わろうとしない、そういうところも地域の課題と思いました。

理事長　お年寄りたちが楽しそうだから出てみようということで、声を掛け会って出られるような事業もやりたいと思っています。これからは高齢化社会がますます進んでいきますので、青少年育成も重要ですが調和の取れた事業が必要なのかなと私達も思います。

中澤氏　高齢化の話でいいますと、北区は平成20年度までは新潟市の中で一番高齢化率が20%と低かったんですよ。ところが平成25年には25%近いのです。市の平均に近いところまでいきました。要するに高齢化率の進展が一番早いんですよ。我々も来年度に向けていろんなことを考えていますが、行政だけでは全てできない部分があります。高齢者でもお元気な方、普通の生活のできる方、寝たきりや施設に入っている方、同じ高齢者でもいろんな方がいらっしゃいます。大切なこととして、1つは寝たきりにならない、要するに健康寿命を延ばそうとすることで、いろんなスポーツを始め、楽しみ、交流、そういうところをもっと増やして力を入れていこうと、もうひとつは介護が必要な方については、介護保険制度はありますが、今よりも地域なり隣近所を含めて支え合いをしていかないと、支える人間が少なくなっていますので、そういう中で是非JCさんからは両方、要するに元気なお年寄りをこのまま元気にという活動と在宅でちょっと人の手を借りないといけない、何か日常的なもので支えになって頂ける仕組み作りについて活動してもらえると本当に有り難いなと思っています。

理事長　この対談は会報にも載りますし、全メンバー、OBにも届きます。100名以上の関係者が見ますので、来年以降の事業を担当する長がきっと区長のご意見を生かした関係する事業をやると思います。

中澤氏　そういうことで行政はそのような取り組みをしているところに対しては、いままで以上に厚く支援をしていこうと、それはお金だけではなく、いろんな部分で一緒にやっていこうと思っています。来年度の取り組みとして市の方でも出てくると思いますので、一緒にやって頂ければ非常に有り難いと思います。

理事長　あらためて課題は皆さん共通している、この地域で活動されている皆さんは同じことをいうのだなと、区長からお話しを伺いましてあらためて実感したところです。そして、青少年育成の点については、私たちも様々な体験型の事業を計画して、子供達を対象に行っているのですが、区長の観点から北区でこのような事業があったほうがいいのではないか、これは区長の個人的な見解でもいいのですが、お聞かせ頂ければと思います。

中澤氏　理事長さんは若くて40歳、私は60に手が届く年齢なのですが、やっぱり郷土愛といいますか、私があるところで、いろんな若者がいる中で、君はどこの出身ですかと聞いたら、北区です、葛塚です、と答えた若者がいました。さっと自分の出身地を、誇りを持ったような顔で答えたことは忘れられませんね。

中澤氏　基本は地域を愛して、生まれ育ったところはやっぱりいいねと思うことです。それは、大人になって始めてわかることかもしれませんが、やはりそういう地域作りをするために何ができるかということです。具体的に北地区でまちづくり計画を新しいものを作ろうということで、中学生にアンケートを取ったんですよ。その中には、今時の子供だから、ゲームセンターがほしいとかコンビニが足りないという答えもありましたけど、割と私が驚かされたのが、地域に自然が多い、環境が非常にいいという答えがあったんですね。これって北区の大きい特徴ではないのかなと、その恵まれた自然環境の中で、人のことを思いやりながら、そういう子供達を学校教育は学校でやっていますけど、地域としてもフォローアップしていく必要があります。究極は大人になって、私の出身地はここですと、いいところですと人に言えるような、抽象的ですが、それが目指すべきところなんですよ。

理事長　私、今年の所信で書かせて頂いたのですが、地域に育つ子供の郷土愛によって地域は変わると思います。そういうことで、一番例え易いのがお祭りだと思います。神事ごとは郷土愛を醸成し易い環境を作るものだと思っています。そして、最近は自然が多いのに自然と触れ合うことができない子供達が多い気がします。勉強も大切なのですが、その両立があれば一番いいのかなと思います。私達は福島潟自然文化祭で泥んこレースというものも行いました。いろんなところで、北区は自然があっていいところなんだということを、私達は伝えていかなくてはと思います。

中澤氏　そのためには、お子さんにも感じてもらうことも重要なのですが、その親御さんに感じてもらうことも重要です。私、本庁にいたときには農林水産部長もしていたのですが、ひとつは食育という部分、子供達には食べ物の大切さとか、生産している人に対する感謝の気持ちも重要ですが、親御さん自体が畑でどんなものがどのように成っているのかわからない。学校給食も大切ですが、家庭での食事も大切なんですね。学校給食は多くて月20回、家庭での食事は月70回あるんですよ。食というのは全て自分達に関わってくるものです。私は子供さんのいろんな想いを伸ばして行くには、いい意味で、親御さんも一緒に成長していくべきと思います。

理事長　まったくそのとおりで、今年の理事長所信に掲げて置けばよかったと今更ながらにおもいます（笑）

中澤氏　JCさんの活動として、行政にもできない、他でもできない、その辺の日常の家庭、学校では体験できない、多少の厳しさもある、そういう風な活動を積極的にやって頂くと非常にいいのかなと思います。

理事長　私達は北区で活動する、ここで生まれ育ったメンバーがほとんどですので、その担える部分は多いと思います。また、時には奇抜な発想で、人に物を言われても、どんどん前に進んでいかなくてはと思っています。

最後に、私達を含めて北区に携わる青年団体に期待することをお聞かせください。

中澤氏　皆さんの団体が豊栄からにいがた北に名称が変わった、非常に期待することがあります。まず皆さんの輪を広げて、北地区、豊栄地区という垣根を越えて、お互いの行事に参加をして、また、皆さんのような若い世代にしかできないことを積極的にやってもらいたいですね。せっかくお祭りのごみ拾いとか目に見えないところで頑張って頂いているところです。その存在感、活動を積極的にPRすること、それによって輪も広がるし、活動の内容も様々な分野で広がっていくと思っています。最後に私は職員にもいっているのですが、仕事もそうだし、皆さんの活動もそうですが、まず自分自身が楽しいと思うことが、活動が成功する大きなキーワードかなと思っています。今後とも大いに期待していますので、よろしくお願いします。

理事長　先ほどのお祭りの掃除の話ですが、PRにすることについては正直いろんな議論があります。それは何故かといえば、私達のなかではこれは私達が好きでやるんだから、人にやります、来て下さいというのは違う、これに賛同して来ることは構わないけど、ということで大きくPRしにくい部分もあります。

中澤氏　私達の方で皆さんの活動を、例えば私達のホームページの中で地域のいろんな活動を掲載しているので、そういう中に取り上げてもいいと思います。自薦もあるが他薦もいいのではないかということですよ（笑）

理事長　区長からそのようなお言葉を頂くと、確かに自分達が好きでやっているわけですが、やはり、そこは人ですので、褒めてほしいわけではないのですが、頑張っているんだねと、その言葉ひとつでも私達には本当に励みになります。本当に本日はお忙しい中、ありがとうございました。